

平成19年度緊急時対応訓練(案)

平成19年10月30日
食品安全委員会事務局

食品安全委員会における緊急時対応訓練の位置づけ

食品安全委員会食中毒等緊急時対応実施指針

食中毒等による緊急事態等が発生した場合に緊急時対応が迅速かつ適切に行われるよう、平時から体制を整えておく

緊急時対応訓練の実施

担当者の意識高揚、
知識の向上

緊急時対応体制の
実効性の確認

訓練の継続的な実施サイクル

緊急時対応訓練

計 画

訓練の設定

実 行

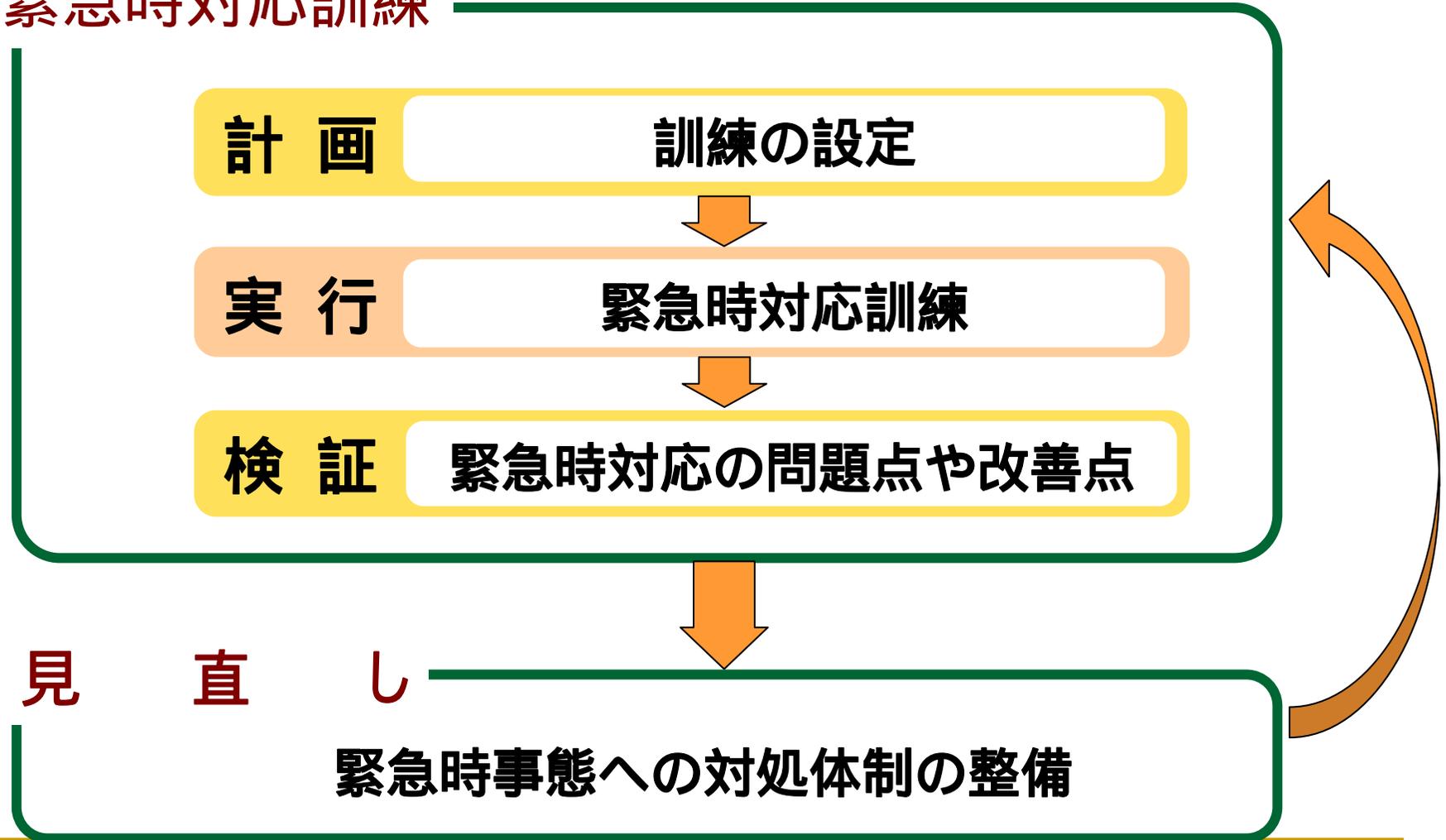
緊急時対応訓練

検 証

緊急時対応の問題点や改善点

見 直 し

緊急時事態への対応体制の整備



緊急時対応訓練の手法(訓練形式)

訓練形式	特徴
研修会	座学を中心として、基礎的知識及び専門知識の習得を図る。さらに組織が抱える未解決の課題等についても議論を深めておく。
机上シミュレーション	実際に体を動かすものではなく、イメージ力の向上や、判断能力の向上を目的とする場合に適した訓練。また、空間的あるいは時間的な制約がないため、例えば災害の長期化に関する課題の抽出等、実際の訓練では実施が困難な事項の検討にも適している。
シナリオ提示型訓練	対応手順や連携の確認に主眼をおくため、事前に訓練シナリオを提示する訓練。実践的な対応力の向上には向かない。
シナリオ非提示型訓練	訓練シナリオを事前に提示しない形式の訓練で、完全な抜き打ち訓練ではないが、訓練参加者(プレイヤー)は訓練中にコントローラーから付与される情報(状況)に基づき自ら判断し行動する。実践的な対応力を検証するのに適している。
抜き打ち訓練	訓練開始のタイミングでさえも事前に参加者に伝えない訓練。シナリオ非提示型訓練よりもより現実に近い状況設定となるが、訓練による混乱防止の観点から、対象範囲は限定される。

平成18年度緊急時対応訓練について

回	テーマ(目的)例	種類	内容例
第1回	緊急事態についての展開イメージの共有	机上シミュレーション	関係者が一堂に会し、緊急事態を設定の上、時系列に沿って、想定される事態の進展、初動体制の段取り等、マニュアルの分掌に則り話し合う。
第2回	緊急時マニュアルの実効性検証	シナリオ非提示型訓練	訓練対象者に緊急事態に関する情報を適宜付与。訓練対象者は、マニュアルに従いつつ、臨機応変に判断・行動する。
第3回	緊急時広報に関する対応能力の向上	個別要素訓練	訓練対象者が、専門家レクチャー受講、広報文案の作成、記者会見の模擬実施等を行う。

平成18年度緊急時対応訓練から抽出された重点課題

平成18年度の緊急時対応訓練から、以下の重点課題を抽出

- 委員会内の認識の共有を図る。
様々な設定の訓練を実施し、疑似体験を重ねる。
- 緊急時対応マニュアルの実効性を高める。
机上シミュレーションと同様の設定の実動訓練を実施することにより、緊急時対応の確認及び緊急時対応マニュアルの検証等を行う。
- 効果的広報技術を習得する。
広報に関する講習やメディアトレーニングを実施する。

平成19年度第1回緊急時対応訓練(案)

回	テーマ(目的)例	種類	内容例
第1回	<ul style="list-style-type: none">・委員会内の認識の共有を図る・緊急時マニュアルの実効性を高める(関係府省との連携の強化)	机上 シミュレーション	<ul style="list-style-type: none">・大規模食中毒等の発生に対する委員会事務局及びリスク管理機関の対応をシミュレーションし、確認することにより、緊急時対応における関係府省との連携を強化する。
第2回	<ul style="list-style-type: none">・委員会内の認識の共有を図る・緊急時マニュアルの実効性を高める。・効果的な広報技術の習得(情報提供パターンの確認)	実動訓練 (シナリオ非提示型)	<ul style="list-style-type: none">・大規模食中毒等の発生を想定したシナリオを作成し、シナリオの各段階における状況を付与し、各段階における委員会内における対応の疑似的な体験をする。

平成19年度第1回緊急時対応訓練内容(案)

➤ 目的:

委員会内の認識の共有を図る
緊急時マニュアルの実効性を高める
(関係府省との連携の強化)

➤ 目標:

食品による健康被害が発生している状況における
委員会の対応を確認し、委員会及び委員会事務局内の認識の
共有を図る。
リスク管理機関の対応を確認し、委員会及びリスク管理機関との
認識の共有を図り、連携を強化することで緊急時対応マニュアル
の実効性を高める。

訓練様式:

シナリオ非提示による机上シミュレーション形式の訓練

緊急時対応マニュアル

(食品安全関係府省緊急時対応基本要綱、食品安全委員会緊急時対応基本指針、食品安全
関係府省食中毒等緊急時対応実施要綱、食品安全委員会食中毒等緊急時対応実施指針)

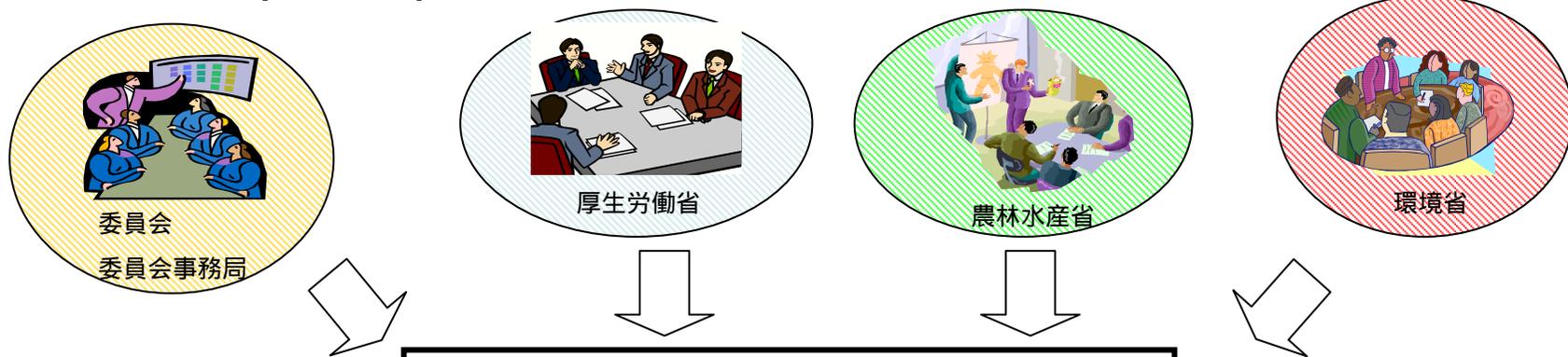
平成19年度第1回緊急時対応訓練の進め方(案)

情報源(コントローラー): プレーヤーに想定シナリオ(情報)を付与する



<ファクシミリで送付する>

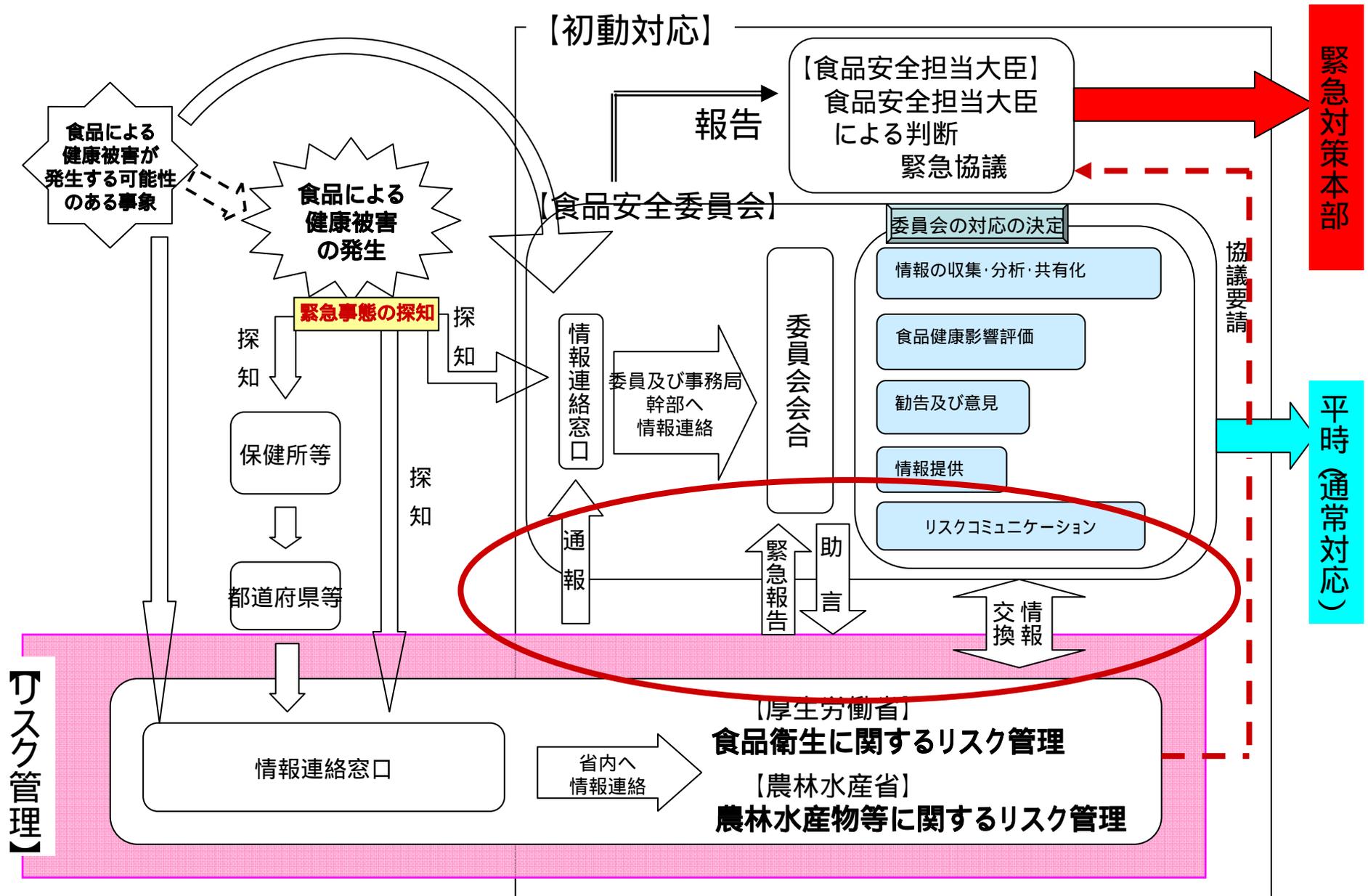
各府省担当者(プレーヤー): 対応を協議する



検討した対応を訓練事務局に送付する

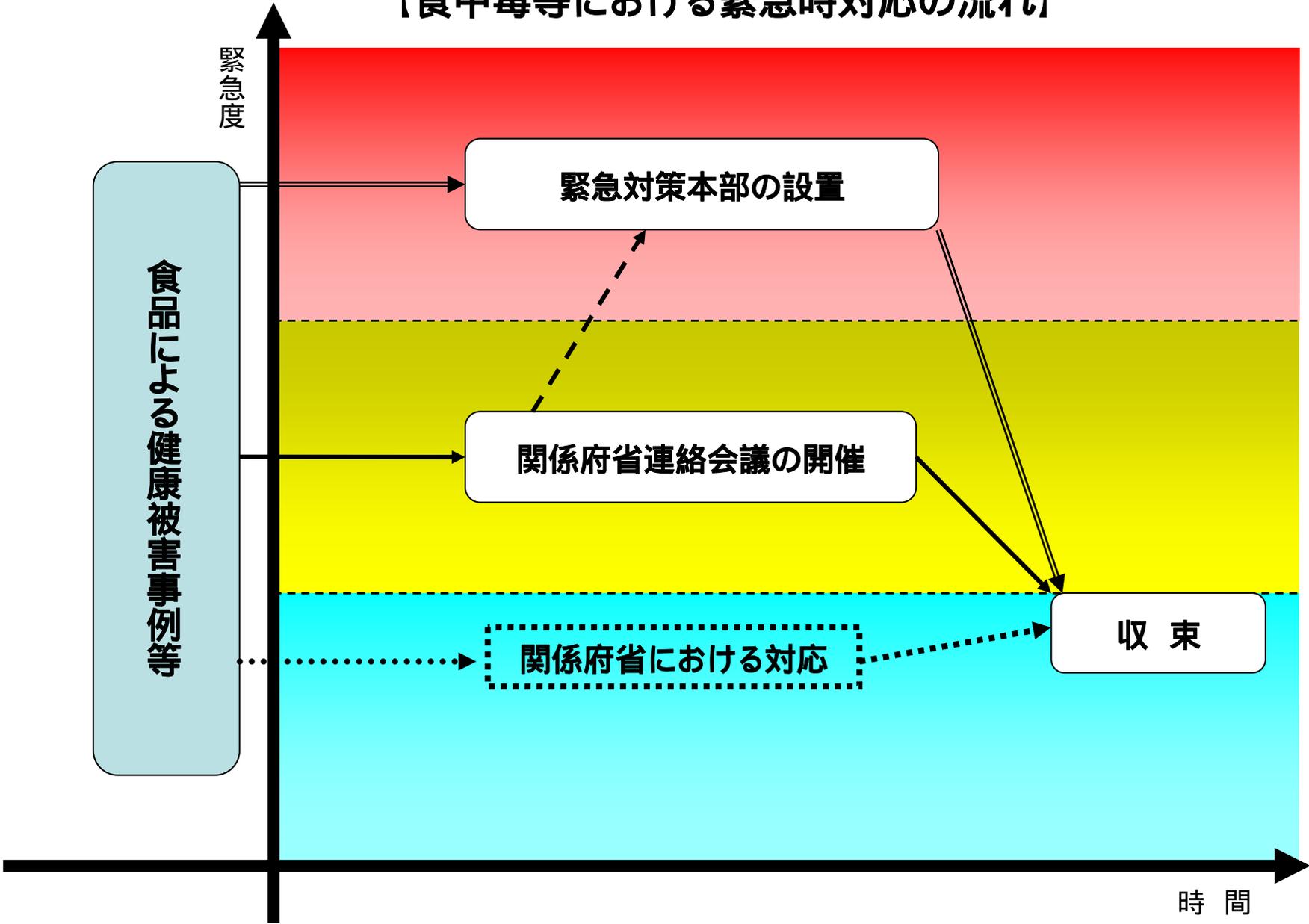
総括会議において各府省の対応を確認する(後日開催)

平成19年度第1回緊急時対応訓練のポイントについて



想定シナリオのステージ

【食中毒等における緊急時対応の流れ】



想定シナリオ例

食品安全関係府省緊急時対応基本要綱に定める「緊急事態等」となりうる状況を想定し、想定シナリオを作成する。

< 被害が大規模又は広域であり、かつ食品安全委員会及びリスク管理機関の相互間において対応の調整を要すると考えられる >

- 複数県にまたがる食中毒が発生している。
原因物質、原因食品とも確定しているが、被害が収束しない。
原因物質は確定しているが、原因食品が確定していない。被害が拡大するおそれがある。

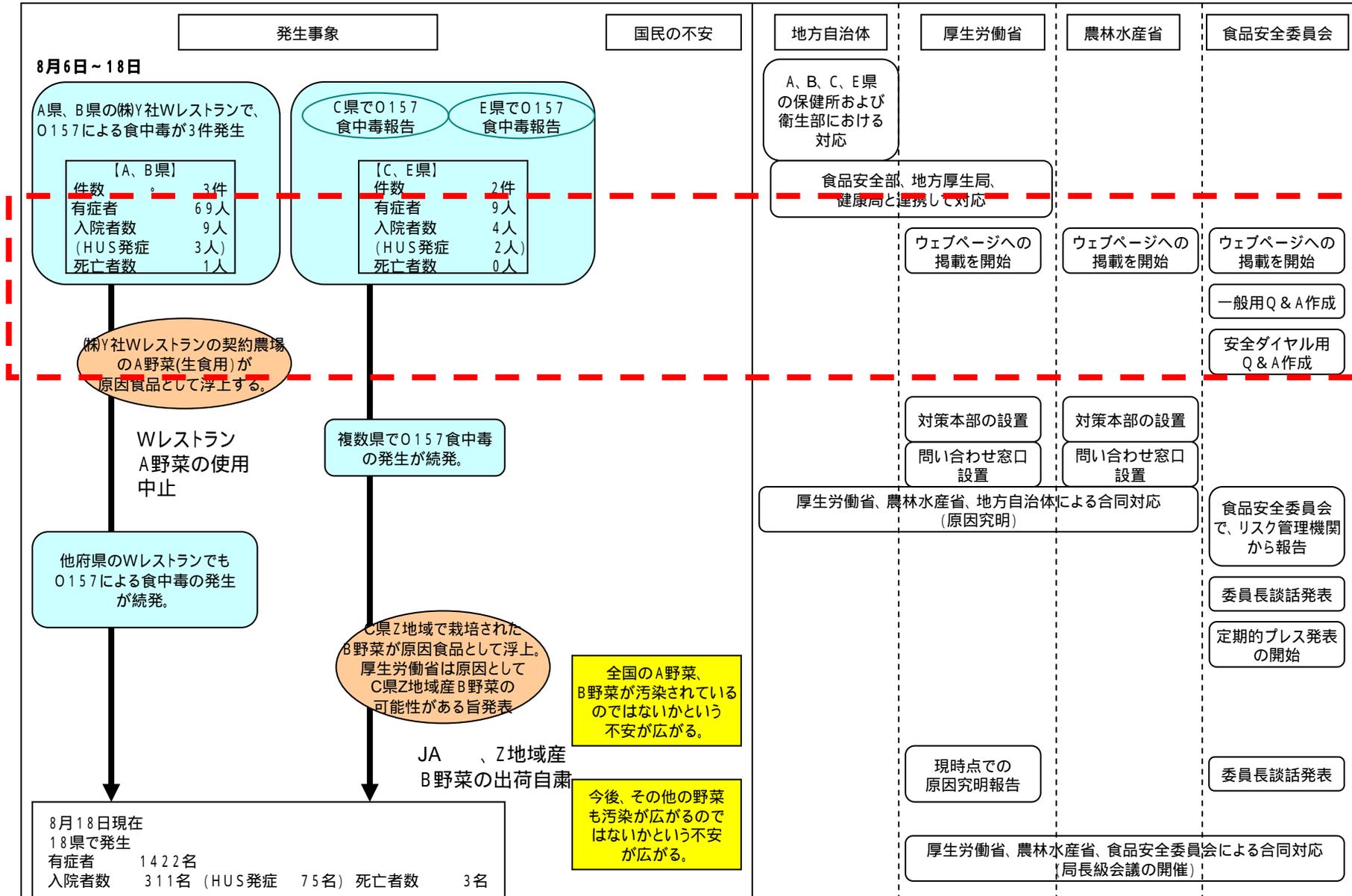
< 科学的知見が十分ではない原因により被害が生じ、または生ずるおそれがある >

- 食品を原因とする脳炎が発生。
原因物質、原因食品とも不明。

< 社会的反響等を勘案し、緊急の対応が必要と考えられる >

- 残留農薬基準を超える農産物が出荷されていた。

平成18年度第2回訓練のシナリオ～8月19日(火)(訓練当日)までの状況(設定)



平成19年度第1回緊急時対応訓練実施スケジュール

年月日	区分	参加者	内容
H19.10月上旬 ~11月中旬	訓練準備事務局会議	訓練事務局	訓練準備検討 シナリオ検討
H19.11月 中旬	机上シミュレーション・リ ハーサル	訓練事 務局	リハーサル
H19.12月 月上旬	平成19年度第1回訓練 机上シミュレーション開催	訓練 参加者	オリエンテーション 机上シミュレーション 反省会
H19.12月 月上旬	総括会議	訓練参 加者	机上シミュレーションの 総括

平成19年度第1回緊急時対応訓練参加者

区分	担当
コントローラー	情報付与担当（訓練準備事務局）
プレーヤー	食品安全委員会事務局 情報緊急時対応課：課長、総括補佐、緊急時対応担当補佐 厚生労働省 農林水産省 環境省
協力者	食品安全委員会委員、食品安全委員会事務局長及び次長 厚生労働省食品全部企画情報課 農林水産省消費・安全局消費・安全政策課 環境省水・大気環境局土壌環境課

平成19年度第2回緊急時対応訓練内容(案)

➤ 目的:

委員会内の認識の共有を図る
緊急時対応マニュアルの実効性を高める。
効果的な広報技術の習得。(情報提供パターンの確認)

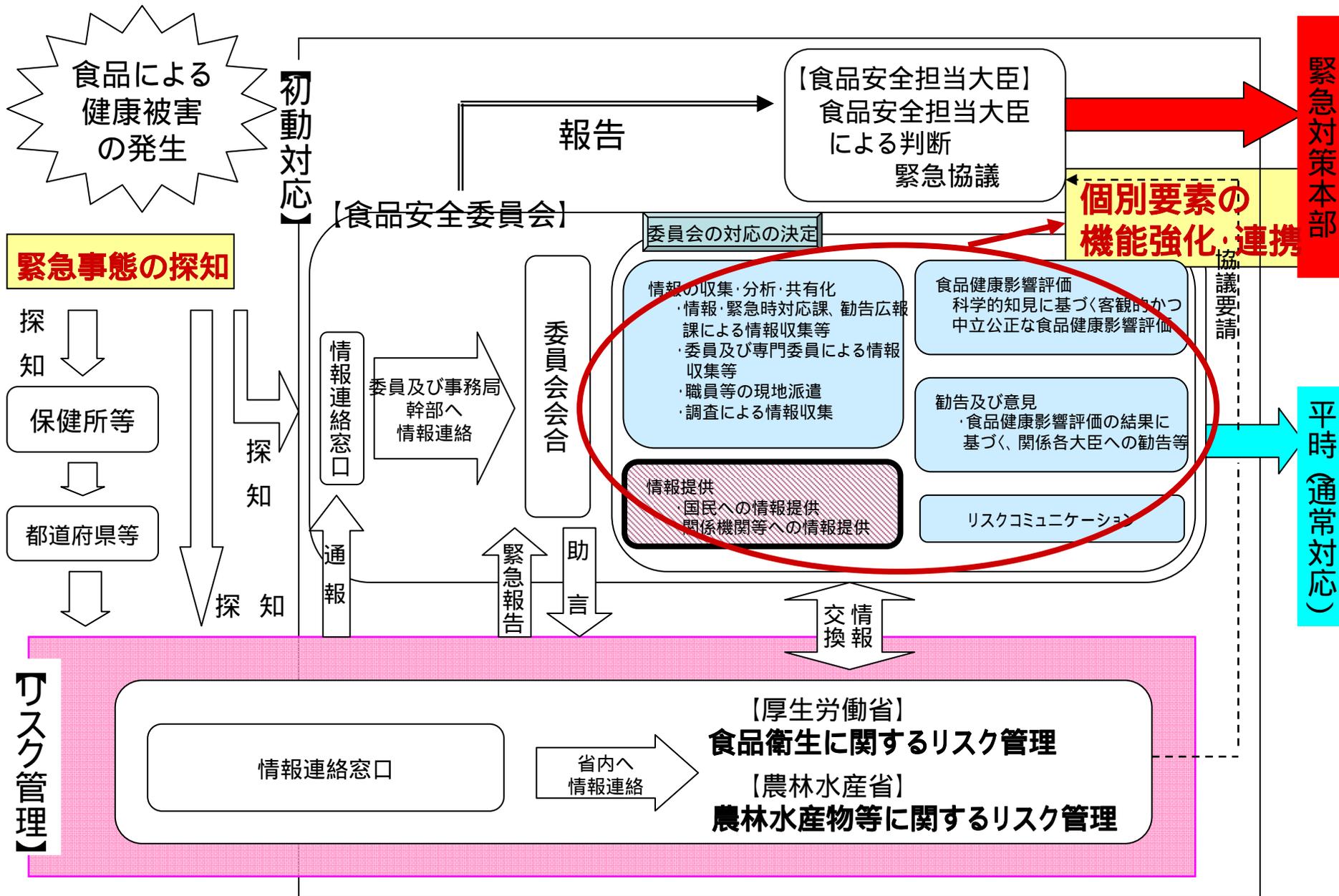
➤ 目標:

食品による健康被害が発生している状況における
委員会の対応を確認し、委員会及び委員会事務局内の
認識の共有を図る。
緊急時対応マニュアルの実効性を高める。
委員会内の情報提供の手順を確認する。

➤ 訓練様式:

シナリオ非提示による実動形式の訓練

平成19年度第2回緊急時対応訓練のポイントについて



平成19年度第2回緊急時対応訓練実施スケジュール

年月日	区分	参加者	内容
H19.12月 中旬～2月 月上旬	訓練準備事務局会議	訓練 事務局	訓練準備検討 シナリオ検討
H20.2月中 旬	机上シミュレーション・リ ハーサル	訓練 事務局	リハーサル
H20.2月下 旬	第2回訓練 実動訓練開催	訓練 参加者	オリエンテーション 実動訓練 反省会
H20.3月上 旬	総括会議	訓練 事務局	実動訓練総括

平成19年度第2回緊急時対応訓練参加者

区分	担当
コントローラー (FSC事務局)	訓練準備事務局 (<ul style="list-style-type: none">・情報付与全般・リスク管理機関(厚生労働省、農林水産省、環境省)・都道府県・その他)
プレーヤー (FSC事務局)	総務課：課長、総括補佐 評価課：課長、評価調整官 情報・緊急時対応課：課長、総括補佐、緊急時対応担当補佐 勧告広報課：課長 リスクコミュニケーション官
FSC幹部	局長、次長
FSC委員	委員
オブザーバー	緊急時対応専門調査会専門委員
補助(記録)	(株)三菱総合研究所